

# 人間看護学研究

## Journal of Human Nursing Studies

21  
2023  
March

人間看護学研究

No.21  
March 2023

滋賀県立大学人間看護学部



### 目次

**巻頭言**  
糸島 陽子

**研究ノート**  
臨地実習における指導者と教員双方の指導上の困った経験からみえた連携・協働のあり方  
千田美紀子, 伊丹 君和…………… 1

**活動と資料**  
COVID-19 蔓延下における成人慢性期看護学実習の実習目標達成に向けた学内実習の工夫とルーブリック評価尺度の到達レベルの検討  
片山 将宏, 横井 和美…………… 13  
COVID-19 の影響下における成人クリティカルケア実習の取り組み：成果と課題からみえた今後の展望  
生田 宴里, 荒川千登世…………… 21  
COVID-19 禍における成人看護学実習の実習方法と教育方法の工夫  
横井 和美, 生田 宴里, 片山 将宏, 喜多下真里, 小野あゆみ, 荒川千登世, 糸島 陽子…………… 29  
サービス付き高齢者向け住宅に入居する高齢者の支援ニーズに関するスコーピングレビュー  
森本 安紀, 新井香奈子…………… 39

**フォーラム**  
2021 年度のコロナ禍におけるエンドオブライフケア実習の取り組み  
喜多下真里, 糸島 陽子, 小野あゆみ…………… 47  
人間看護学研究投稿規定…………… 51  
原稿執筆要領…………… 52

### Contents

**Foreword**  
Yoko Itojima

**Notes**  
Collaboration considered from the experiences of supervisors and teachers who felt they had difficulty of teaching in nursing practice  
Mikiko Senda, Kimiwa Itami…………… 1

**Reports and Materials**  
Management and evaluation using rubrics for chronic care nursing practice in nursing school during the COVID-19 pandemic  
Masahiro Katayama, Kazumi Yokoi…………… 13  
Clinical practicum in adult critical care with COVID-19 : prospects seen from achievements and challenges  
Eri Ikuta, Chitose Arakawa…………… 21  
Ingenuity of training methods and educational methods for adult nursing practice in the COVID-19 pandemic  
Kazumi Yokoi, Eri Ikuta, Masahiro Katayama, Mari Kitashita, Ayumi Ono, Chitose Arakawa, Yoko Itojima…………… 29  
Support needs of elderly residents in 'Elderly housing with care services' in Japan : a scoping review  
Aki Morimoto, Kanako Arai…………… 39

**Forum**  
Innovations and challenges in End-of-Life nursing education during the COVID-19 pandemic in 2021  
Mari Kitashita, Yoko Itojima, Ayumi Ono…………… 47

## 人間看護学研究

編集委員長 越山 雅文  
編集委員 新井香奈子  
荒川千登世  
伊丹 君和  
糸島 陽子  
片山 将宏  
國丸 周平  
小林 孝子  
坪井 宏仁

## Journal of Human Nursing Studies

Editor-in-Chief Masafumi Koshiyama  
Editors Kanako Arai  
Chitose Arakawa  
Kimiwa Itami  
Yoko Itojima  
Masahiro Katayama  
Shuhei Kunimaru  
Takako Kobayashi  
Hirohito Tsuboi

人間看護学研究 第 21 号  
発効日 2023 年 3 月 1 日  
発行 滋賀県立大学人間看護学部  
〒522-8533 滋賀県彦根市八坂町 2500  
電話 0749-28-8631  
ファックス 0749-28-9501

制作 株式会社 知人社

ISSN 1349-2721  
School of Human Nursing  
The University of Shiga Prefecture  
2500 Hassaka, Hikone, Shiga, 522-8533 Japan  
tel 0749-28-8631, fax 0749-28-9501

Production: Chijinsha.Co., Ltd.

# 人間看護学研究投稿規定

(令和4年3月23日改正)

## 1. 趣旨

この規定は、人間看護学研究の発行に必要な事項を定める。

## 2. 発行

原則として毎年度1回発行する。

## 3. 投稿者の資格

原則として、滋賀県立大学人間看護学部の教員等が、第一著者あるいは共著者であること。ただし、人間看護学研究編集委員会（以下「編集委員会」という）から依頼された原稿に関してはこの限りではない。また、滋賀県下の関係者については、編集委員会の判断により投稿を認める場合がある。

## 4. 原稿の種類

(1) 原稿の種類は、下記の通りとする。

原著論文：独創的で、新しい知見や理論が論理的に示されており、論文としての形式が整っているもの。

総説：ある主題に関連した研究・調査論文の総括および解説

研究ノート：内容的に原著論文の域に達していないが、研究結果の意義が大きく、発表の価値があるもの。なお、「概論分析」論文はここに含まれる。

活動と資料：看護活動に関する実践報告、調査報告、有用な資料など。なお、「文献的検討」論文はここに含まれる。

フォーラム：人間看護に関わる海外事情、関連学術集会の報告、および掲載論文に対する意見など。

書評と紹介：内外の人間看護学研究に係る図書、論文および研究動向について批評、紹介をおこなうもの。

学部広報：人間看護学部の動向や記録事項など。

(2) 原稿の種別は著者が行うが、編集委員会が種別変更を求める場合がある。

## 5. 原稿の制限事項

(1) 投稿原稿は、国内外を問わず未発表のものに限り、重複投稿は禁止する。

(2) 原稿は刷り上がり（原稿1頁は2400字）で、写真・図表を含めて下記の制限枚数内とする。

原著・総説・研究ノート：12頁以内

活動と資料：6頁以内

他の原稿は2頁以内とするが、学部広報は制限を設けない。

## 6. 倫理的配慮

人および動物が対象である研究は、倫理的な配慮がされており、必要に応じて倫理審査委員会等の承認を得て

いること。また、原稿中にもその旨が明記されていること。

なお、結論の後に「利益相反の有無」を記載すること。

## 7. 投稿手続

(1) 原稿2部（表紙・要旨・本文・図表：ただし著者名・所属名入りを1部と、著者名・所属名削除を1部）を編集委員会宛にメール添付で提出する。Wordを使用し、表紙、要旨、本文を一まとめとして提出する（図・表はその限りでない）。

(2) 最終修正原稿を提出するときには、本文をワード形式で、図表をパワーポイントかエクセル形式で提出する。

(3) 投稿先メールアドレス

kangokenkyu@nurse.usp.ac.jp

## 8. 原稿の受付

上記7の投稿手続を経た原稿が、編集委員会に到着した日を受付日とする。受付後、著者に投稿者チェックシートが配布されるので、著者は必要事項を記入してこれを提出する。なお、受付した原稿等はオリジナルを除いて理由の如何を問わず返却をしない。

## 9. 原稿の採否

(1) 原稿の採否は査読を経て編集委員会が決定する。

(2) 査読結果により原稿の修正を求められることがあるが、修正を求められた原稿著者は、編集委員会の指定した期日までに内容修正を行い再投稿すること。指定された期日以降に再投稿された場合は、原則として新規受付の取り扱いをする。

(3) 原稿が、投稿規定の制限事項から大きく逸脱している場合には受理しない。

## 10. 著者校正

査読を経て、編集委員会に受理された最終原稿については、著者校正を1回行う。但し、校正時の加筆は原則として認めない。

## 11. 執筆要領

原稿の執筆要領は別に定める。

## 12. 著作権

原稿内容についての第一義的責任と権利は著者に帰属するが、原稿の編集・出版および電子情報化など2次的使用に関する権利は、編集委員会が著者から委託されたものとする。

なお、著者が電子情報化を希望しない場合は、投稿時に編集委員会に文書で申し出ることとする。

## 13. 掲載料・別刷

掲載料は無料とする。但し、特殊な図表等で特別な経費を要した場合には著者負担とする場合がある。別刷は希望者のみとし、費用は著者負担とする。

# 原稿執筆要領

(令和4年3月23日改正)

## 1. 原稿構成

- (1) 原稿は、表題頁、要旨、本文、文献、英文抄録、図・表の順とする。和文要旨、英文抄録の各末尾にそれぞれ6個以内のキーワード Key words をつける。
- (2) 表題頁には、表題、著者名、所属機関名を記し、その下に間隔をあけて連絡先（氏名、所属、住所、電話、Fax、E-mail アドレス）、原稿の枚数および図・表の数、希望する原稿の種類を明記する。和文の原稿にあつては、表題・著者名・所属名の英文訳を付すこと。
- (3) 原著論文の要旨は、研究の「背景」「目的」「方法」「結果」「結論」にわけて、見出しをつけて記載すること（1000字以内）。その他の原稿の要旨には見出しをつけない（500字以内）。
- (4) 本文は、I. 背景、II. 目的、III. 用語の定義（必要時）、IV. 方法、V. 結果、VI. 考察、VII. 結論、の順に記載する。「総説」「活動と資料」の場合はこれに準じなくても良い。
- (5) 見出しについて  
論文の構成をわかりやすく提示するために見出しを階層化する。
  - ①見出しは「MS ゴシック」体 11 ポイントを用い、外国語・数字には「Times New Roman」を用いる。
  - ②見出しの階層は第1階層から第7階層までとする。
  - ③第1階層は論文タイトル（題目）で、見出しに数字やアルファベットを付けない。論文タイトルは印刷時には中央揃えになる。
  - ④本文の見出しは、以下に示す第2階層から第7階層までの6つの階層から構成する。見出しに付ける数字・記号、およびピリオドは全角を使用する。
    - 第2階層：I. II. III. 中央揃え
    - 第3階層：A. B. C 左端揃え
    - 第4階層：1. 2. 3. 左端揃え
    - 第5階層：a. b. c. 見出しのみ、本文左端より1字下げる
    - 第6階層：1) 2) 3) 上位の見出しより1字下げる
    - 第7階層：a) b) c) 上位の見出しより1字下げる
  - ⑤論文中で使用する見出しの階層が3階層までの場合は数字記号、すなわち第2階層と第4階層と第6階層を使用する。
  - ⑥4階層以上になる場合は上位から順に使用する。
  - ⑦ある階層に下位階層をつくる場合、下位階層の項目は必ず2つ以上の項目をつくる。項目が1つしかない場合には、下位階層の項目とはしない。

- (6) 文献の記載は、2. (8) に従う。
- (7) 原著論文には英文抄録（500語以内）をつけること。その他の原稿の場合は、英文抄録を省略することができる。英文原稿の場合は、英文抄録と同様の要領で和文抄録をつけること。

## 2. 執筆要領

- (1) 原稿はパソコンで作成する。
- (2) 原稿はA4版縦、横書きで、1頁1400字（40字×35行）になるように作成し、表題頁より頁下中央にMS明朝のアラビア数字（1,2,・・・）で頁番号を表示する。フォントはMS明朝（英数字は半角、Times New Roman）、11ポイント、読点は「」（全角カンマ）、句点は「.」（全角ピリオド）」とする。
- (3) 原稿は、原則として、新仮名づかい、常用漢字を使用する。
- (4) 外国語はカタカナで、外国人や日本語訳が定着していない学術用語などは活字字体の原綴で記載する。
- (5) 数字は算用数字を用い、単位符号は原則としてSI単位（kg, mg, mm, ml, kcal, °Cなど）を用いる。
- (6) 国際的な共通語を使用し、一般的に認められている略語以外は説明なしでは使用しないようにする。特定分野でのみ用いられる略号、符号などに関しては、初出時に簡単な説明を加える。
- (7) 図・表は、それぞれ図1、表1などの通し番号をつけ、本文とは別にまとめる。
- (8) 文献の記載方法はAPA第7版スタイルに準拠する。
  - ・本文中の文献引用
    - ①引用箇所に、著者姓と発行年を括弧書きする。  
例：（滋賀，2000）  
著者名が本文中にある場合は、発行年のみ括弧書きする。  
例：滋賀（2000）は…
    - ②著者が2人の場合は「,」（英文では“&”）を入れる。  
例：（滋賀，田中，2000）
    - ③著者が3～5名の場合は全員の名を挙げ、再引用では「筆頭著者ら」とする。なお、著者名は「,」で結ぶ。
    - ④6人以上は筆頭著者名に「ら」（英文では“et al.”）をつける。  
例：滋賀ら（2000）
    - ⑤異なる著者の文献を同一箇所で引用する場合は、セミコロン「;」で区切って、筆頭著者のアルファベット順に並べる。  
例：（江藤，2012；前田，2011）

- ・本文中の直接引用  
「 」で引用し，著者姓，発行年，頁数を明記する。
- ・文献リストの記載  
著者姓のアルファベット順に列記する。全員の著者名を表記する。雑誌略名は医学中央雑誌，Index Medicus，International Nursing Index に従う。

**【雑誌掲載論文】**

著者名（発行年）．表題．雑誌名，巻（号），開始頁 - 終了頁．

滋賀一郎，琵琶花子，八坂次郎，近江三郎（2011）．  
看護の方法．看護雑誌，30（1），311-315．

Onishi, A. (1995). Perceptual comparisons through the mind's eye. *Memory and Cognition*, 10, 622-684.

Wegener, D. T. & Petty, R. E. (1994). Mood management across affective states: The hedonic contingency hypothesis. *Journal of Personality & Social Psychology*, 66, 1034-1048.

A., B., C. & D. (1994)（3名以上の場合）

**【単行本】**

著者名（発行年）．書名（版），pp. 引用開始頁 - 終了頁，  
発行地：出版社．

滋賀一郎（1995）．看護の源流（第3版），pp. 333-354，  
大津：ナーシング出版．

著者名（発行年）．表題．編者名，書名（版），pp. 引用開始頁 - 終了頁，発行地：出版社．

滋賀一郎（1995）．看護研究の方法．（明智太郎 他，編）．  
人間看護研究，pp. 333-354，大津：ナーシング出版．

Strunk, W. Jr. & White, E. B. (1979). *The elements of style* (3rd ed.). New York: MacMillan.

**【訳書】**

原著者名（原著発行年）／訳者名（訳書発行年）．訳書名（版），pp. 開始頁 - 終了頁，発行地：出版社．

Biwa, A.B. & Johnson, P. (1993)／滋賀一郎（1995）．  
看護研究（第3版），pp. 333-354，大津：ナーシング出版．

**【電子ジャーナル】**

著者名（発行年）．表題．雑誌名，巻（号），開始頁 - 終了頁，doi：xx，xxxxxx

例：麻原きよみ，三森寧子，八尋道子，小西恵美子，百瀬由美子，小野美喜，安藤広子（2016）．  
看護研究の倫理審査に関する考察：アメリカ合衆国の事例を踏まえて．*日本看護科学会誌*，36，80-84，doi:10.5630/jans.36.80